招待制プライベートサウナ

湧火

YUUKA

半径五百メートル、無人。

yu-ka.space ・ 公開 2026.06.01

STATEMENT　主張

情報社会への、
アンチテーゼ。

検索しても、出てこない。地図にも、ない。通知は鳴らず、おすすめも、表示されない。

あるのは、火と、湯と、沢の音だけ。ここでは、何ひとつ最適化されない。

持ってきた情報は、ここに置いていく。

FIRE & WATER　火と、水

南アルプス・甲斐駒ヶ岳（標高2,967m）の麓、半径500mに人のいない私有地。薪をくべる100℃超のサウナと、敷地を流れる天然の沢の水風呂で構成される。

沢の水温は夏におよそ12℃、冬には8℃まで下がる。水底が見えるほど澄んだ水が、花崗岩の山が長い時間をかけてつくった冷たさを運ぶ。

THE WATER　水について

水を生むのは、甲斐駒ヶ岳の花崗岩である。およそ1,400万年前、地下深くでマグマがゆっくりと冷えて固まった、日本でも新しい部類の花崗岩だ。

花崗岩は、風化すると水を通す。山はそのまま、天然のろ過装置になる。雨と雪解けは、長い年月をかけてこの岩盤をくぐり、濁りを漉し取られていく。澄んでいるのも、硬度の低い軟水であるのも、この山のためだ。

ここは、水で知られた土地でもある。環境省の名水百選に、三つの水源が選ばれている。ウイスキーや菓子の作り手も、この水を求めて、麓に拠点を構えてきた。

IN THE MAKING　これから育てていく場所

湧火は、完成された施設ではない。原野に火を入れ、沢に身を浸し、道や棚に少しずつ手を入れながら、これから育てていく場所である。仕上がった景色を見せるのではなく、変わっていく途中に、人を迎える。

現在は、招待制で運営している。最初に迎える数名を、火守（ひもり）と呼ぶ。火の番をし、この土地に通う人、という意味だ。登録した人には所定の審査があり、場所と料金を外に明かさないこと、火と水と人への礼を守ることを、迎える前に確かめる。

登録した人に送るのは、場所でも、予約の方法でもない。雪が解けたこと、沢の水が温んだこと、新しい薪を割ったこと——この土地の便りを、季節とともに少しずつ届けていく。

湧・火

「湧」は、湧き出る水。「火」は、薪の炎。湧火という名は、このふたつだけでできている。

水と火は、本来交わらない。打ち消し合うはずのふたつが、ここでは同じ場所に在る。冷たい沢と、100℃を超える薪の熱。そのあいだを、人は行き来する。

ふたつが出会うのは、訪れた人の体の上だ。湧と火が触れ合う、その一瞬を、名にした。

FOR BUSINESS　接待・法人利用

湧火は、法人での利用も受け入れている。重要な接待、役員のリトリート、幹部の研修、周年や慰労の褒賞として。

フィンランドには、サウナ外交という言葉がある。地位も肩書きも脱げば、人は対等になる。大事な話ほど、静けさの中でこそ進む。半径500mに人のいないこの土地は、聞かれたくない話を、聞かれない場所で交わすための器になる。

法人での利用には、敷地全体の貸切で応える。滞在のあいだ、ほかの誰とも顔を合わせることはない。進行を担うホスト、専属のケータリング、送迎までを手配する。ここで交わした言葉は、ここに残す。完全予約制、ご相談のうえお見積りいたします。

場所は、最後まで明かさない。

ここを知るには、招かれるしかない。

湧火

YUUKA

取材・お問い合わせ

info@yu-ka.space ／ yu-ka.space

掲載用画像に人物は含まれません（送迎車を除く）。所在地・料金は非公開です。